

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**

**実施報告書**

**埼玉県 川越市立東中学校**





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

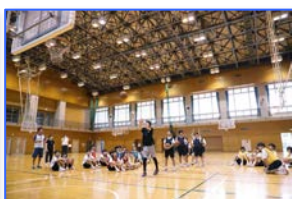
まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実 施 内 容

■期 日 : 2019年11月27日 (水)

■ク ラ ス : 2年1組 (38名)

■オリンピアン : 平野 由佳 先生 (アイスホッケー) 【出場オリンピック/ソチ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日はオリンピックやオリンピックパリュールについて知ってほしいと授業の目的を確認。運動の時間は笑顔で、チームワークを大切に、ルールを守ることを意識するよう伝える。
- ・準備体操として、ストレッチと数集まり、ボール送りリレーを行う。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・フロアホッケーパスリレーを班対抗で全3回実施。各回終了後に作戦タイムを設け、タイムを縮められるような工夫を話し合う。

## 4. まとめ



- ・授業冒頭の約束を守れたか問いかけ、この後の座学の授業も笑顔で最後まで楽しんでほしいと話し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・映像を見せながら競技紹介し、オリンピックシンボルの意味を説明。
- ・平野先生の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、一生懸命頑張る、全力で取り組む、諦めない、努力する」、「フレンドシップ＝友情、チームワーク、お互いを理解する、仲間、協力」、「リスペクト＝敬意／尊重、ルールを守る、フェアプレー、感謝、思いやり」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問①：夢や目標を達成するためには今後どのように取り組むべきか考えてみよう。（個人ワーク）  
 発表：「吹奏楽コンクールで金賞を獲得するために、良いこと悪かったこと両方から学ぶ姿勢を持つ」「柔道の県大会でベスト4に入るために、負けを恐れずに全力で練習する」等
- 発問②：クラスが1つの強いチームになるためには、オリンピックバリューをどのように活かせるか考えてみよう。（グループワーク）  
 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）  
 「ポジティブに考える」「意見を言う」「挨拶する」等（エクセレンス）  
 「友達の意見を認める」「クラスで協力する」等（フレンドシップ）、  
 「相手を認め、小さなことでも敬意を表すことで団結力が高まる」「1人ひとりの意見を尊重」（リスペクト）

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはスポーツに限らず、誰にでも必要な価値である。夢や目標を持った時は、ゴールから逆算することでいつまでに何をすべきか明確になる。掲げた目標に近づいた時は、次の目標を目指すようにし、目標が高すぎて到達できない時には目線を少し下げる勇気を持ってほしい。皆の人生が豊かになるよう、まっすぐに突き進める目標を見つけよう伝え、授業終了。

# 実施内容

■期 日 : 2019年11月27日 (水)

■ク ラ ス : 2年2組 (37名)、2年3組 (37名)

■オリンピアン : 松島 美菜 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/ロンドン大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



・今日のオリンピック教室を通してオリンピックについて知り、人生をよりよく生きるために大切な価値観であるオリンピックバリューについて伝えたいと授業の目的を確認。運動の時間は全力で頑張ること、チームワークを大切に協力すること、フェアプレーを心掛けて取り組んでほしいと伝える。  
・準備体操として、ストレッチとじゃんけん勝ち抜けを実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



・8の字跳びを3チームに分かれて実施。引っかけたら1から数え直し、90秒間に連続で跳んだ最高回数を競う。各回終了後に作戦タイムを設け、記録を更新するための工夫を話し合う。

## 4. まとめ



・全力で、チームで意見を出し合ったり、失敗しても声を掛け合ったり、授業冒頭の約束を守ってくれていたと伝える。  
・座学の時間は松島先生の経験をもとにオリンピックバリューについて詳しく伝えるので、生活の中でのオリンピックバリューについて考えてみよう予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・映像を見せながら競技紹介し、オリンピックシンボルの意味を説明。
- ・松島先生の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「フレンドシップ＝友情、お互いを理解する、チームワーク、仲間、信頼関係」、「リスペクト＝敬意/尊重、フェアプレー精神、環境への配慮、感謝」、「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、一生懸命頑張る」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：日常生活の中でオリンピックバリューを感じられた出来事を書き出してみよう。
- 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）
- 「全力でプレーする」「文武両道」「合唱祭で金賞を獲った」「目標を定める」「ベストを尽くす」等(エクセレンス)
  - 「仲間を応援する」「協力」「励まし合う」「お互いを信頼する」等 (フレンドシップ)
  - 「先生・家族・先輩を尊敬する」「挨拶する」「一致団結」「一つの目標に向かって仲間と高め合い、尊重し合う」等(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは皆がこれから生きていく上で大切な価値観であり、友情を育んだり、周りの人に感謝したりすることを忘れずに人生を歩んでほしいと伝え、授業終了。